

2025 年 5 月 23 日

各 位

会 社 名：株式会社ロココ

代表者名：代表取締役社長 長谷川 一彦

(コード番号：5868 東証スタンダード市場)

問合せ先：常務取締役管理本部長 水 野 賢 仁

(TEL：03-6851-0655)

2025 年 12 月期 第 1 四半期決算に関する質疑応答集

2025 年 12 月期第 1 四半期決算に関して、当社で想定していました質問及び発表以降に株主・投資家などの方々からいただいたお問い合わせに対して回答をまとめましたので、以下のとおりお知らせいたします。

なお、ご理解いただきやすいよう一部内容の加筆・修正を行っております。

- Q1. 2025 年 12 月期 第 1 四半期は前年同期比で増収増益となりましたが、その主な要因を教えてください。
- A1. 新規案件の獲得、既存取引先におけるエンジニア増員や取引内容の拡大、及び企業のシステム投資に伴う機器販売等により、売上を伸ばすことができました。
また、売上増加に伴う売上総利益の増加に加え、販売費及び一般管理費等を前期と同水準に抑制した結果、利益増加に寄与いたしました。
- Q2. クラウドソリューション事業が前年同期に比べ売上高で 21.2%、営業利益で 48.9%と顕著に成長していますが、その主な要因を教えてください。
- A2. 企業のシステム投資による DX 推進の流れを背景に、ServiceNow 事業で新規契約の獲得や既存取引先の追加発注が全体を牽引しました。また、システムソリューション事業では昨年下半年からの契約形態の見直しによる収益の安定化、並びにエンジニアの増員等により売上、利益ともに伸長いたしました。
- Q3. 前期は第 2 四半期に大きく赤字を計上し業績予想を下方修正することとなりましたが、今後の見通しについて教えてください。
- A3. 前期は恒常的に取引のあるお客様との取引において受託開発の注文が計画どおりに行われず、利益を圧迫することとなりました。また、当初の計画どおりではありましたが、顧客との関係強化のための費用などもあったため、2024 年 12 月期の第 2 四半期は赤字となりました。このような状況を踏まえ、契約形態の見直しを行い同様の事態が起らないようにいたしました。
なお、今後の見通しにつきましては現在進行しているところであり、順調に推移していることのみお答えいたします。

Q4. 通期業績予想に対する進捗率はどのように評価していますか。

A4. 進捗状況は売上高が 24.6%、営業利益が 39.8%と順調に推移しております。

今後の経済状況においては先行きが不透明であり、引き続き予断を許さない状況が続くものと考えておりますが、業績予想達成に向けて鋭意努力して参ります。

Q5. 中間配当の実施や増配など配当予想に変更はありますか。

A5. 2025 年 12 月期の配当予想は 1 株につき 25 円としており、現時点では前回公表した内容から変更はありませんが、通期の業績、財政状態及び今後の事業展開等を総合的に勘案し、適宜見直しを行うことを基本方針としており、株主の皆さまに対しても適正な利益の配分を行って参りたいと考えております。

Q6. 今後の業績に影響を与えるリスクは何かありますか。

A6. 現時点で業績に影響を与える重大なリスクは発生しておりません。

経済環境としては為替の変動やアメリカによる関税、資源価格の高騰など企業成長の阻害要因となる不確定要素が多くありますが、当社の事業はこれらの直接的な影響を受けることは無いものと考えております。

Q7. 今後の成長戦略について教えてください。

A7. 引き続き企業のシステム投資は継続するものと考えております。特に中堅企業の DX 化はこれからというところも多く、また、システム投資をしなければならないことは認識しつつも、どこから手掛けるべきか判断しかねている企業も多いものと考えております。

そのような企業に対して当社はコンサルティングを行い、優先順位を付けてシステムの入替、再構築、運用サポートにいたるまでワンストップサービスの提供を行って参ります。

また、当社の有する顔認証の技術は様々な分野での応用が可能な技術であると考えており、この品質を高めるため、ポーランドに研究開発拠点を設けました。ポーランドにおいて優秀なエンジニアを確保し、顔認証技術の品質向上と市場競争力を高めていくとともに、ここを拠点としたヨーロッパ展開も進めて参りたいと考えております。

以上